

第2期アクションプラン（2年目）報告

I. 排水管清掃技術向上のための方策 【担当：事業部（技術委員会）】

各企業が排水管清掃についての適切な知識を持ち、更なる技術力を向上させ、ビジネスの中で自社の強みや創造性を生かし、より付加価値の高いサービスを提供して収益性を高めることが重要である。そこで、更なる技術力向上を図れるよう教育体制及び資格制度の確立を目指す。

1、技術講習（資格制度）

排水管清掃業の信頼性確立に向け仕様の標準化を推進し公的機関認定の資格にするべく活動する

	2年目	3年
プラン	資格講習再講習者に対し、熟練した技術力をより良く安定して広く普及出来るよう再講習会の有り方について検討と実施を重ねる。技能検定を推進する場合は一本化する、または実技に特化した講習会として資格講習を存続するか可能性を探るべく検討する。	資格講習・再講習会を支部主体で実施する。経費を抑えることで既存の開催地（回）に留まらず、要望のある支部での開催を目指す。
報告	新型コロナウイルス感染拡大で、すべての会場の新規講習と再講習が中止になった。 このため、実技講習で使う機材の新設を検討し、新年度から使えるよう検討を進めた。また、再講習をオンラインできるよう検討を重ね、新年度の座学講習を撮影したもので、オンラインの講習を進めるよう具体的な検討を行った。	

2、研修会等の開催

法改正や技術革新に伴う新技术に対応するべく研修会を実施する

	2年目	3年
プラン	引き続き情報を得ながら精査し、講師として招き会員企業を含めた研修会の実施を画策する。	民間企業・官公庁広報等を講師とした研修会を行う。
報告	技術委員会の冒頭にメーカーや新システムの提案会社などのプレゼンを行ってもらい、会員サービスの充実と新技术などの情報収集を行い、協会活動に反映する検討を行った。 また、eラーニングの検討も進めた。	

3、人材育成

各地域において排水管清掃技術の指導者となるべき人材を育成するための活動を行う

	2年目	3年
プラン	引き続き各講習の講師について、支部内での育成により講師人員の増加を図る。	資格講習の新開催地選定に合わせ、支部より擁立した講師候補の育成を図る。
報告	コロナ禍で思うように活動が進まないが、次期の講師候補者について検討を進めた。	

4、安全衛生

労働安全に対する啓蒙普及を行う

	2年目	3年
プラン	関係法令に準じた教育用動画テキストの作成に着手する。 支部ごとの安全大会の継続。	教育用動画テキストの提供をスタートする。安全大会の継続をサポートし、支部統括・支部活性化委員会へ引き継ぐ。
報告	動画の作成について検討を進め、制作会社との打ち合わせを重ねた。	

5、技術相談

清掃技術の様々な問題に対応するべく担当者を置き会員の技術上の問題にタイムリーに応える窓口の運営

	2年目	3年
プラン	(清掃・洗浄・調査)、(単発・定期)、(集合住宅・施設・ビル)等々、各々専門分野のスペシャリストを擁立し事案ごと担当する。	新技術・工法についても研修会を経て習得し、会員企業からの問い合わせに対し対応する。
報告	国民生活センターからの要望で排水管清掃トラブル事例の対応に関する意見交換会をオンラインで実施した。	

6、新たなニーズの調査

排水管の清掃という枠にとらわれることなく管の清掃という大きなカテゴリーの中で社会的なニーズを探る

	2年目	3年
プラン	既存の清掃・洗浄方法以外に画期的・革新的な工法について模索し、検討を重ねる。給水管や循環系統配管の洗浄など高圧洗浄以外の工法についてもその情報を広く集め会員に拡散する。	集合住宅向けの知識・技術の偏りから、施設・ビルの保守についても調査を進め、新たなニーズに対応するべく体制を作る。
報告	前年の発表が最優秀賞を受賞し、第48回大会の発表も優秀賞を受賞するなど、研究成果が広く認められる結果となった。	

7、新技術の確立

既存の技術にとらわれることなく新たな技術を模索する

	2年目	3年
プラン	1年目より継続し、他団体との合同委員会や技術開発に協力し、そこで得たデータを精査し、会員企業に提供する。	普及し始める小口径サイフォン排水システムの維持管理に着目し検証する。
報告	立管が割れる事例報告が波紋を広げ、管理会社からの問い合わせが増え、管理会社やメーカーとの情報交換を行った。	

8、行政機関への働きかけ

	2年目	3年
プラン	引き続き、東京都各保健所での講演を通じ、建物管理者や他行政機関に向けて啓蒙活動を行う。	管理部と連携し、厚労省担当部署への定期訪問を継続する。
報告	東京都板橋区保健所から「ビル衛生管理講習会」の講師派遣依頼を受け、「特定建築物における排水設備の点検方法及び保守・管理の具体的箇所」をテーマに講演の準備を進めた。直前になってコロナ禍の影響で開催が中止になった。	

Ⅱ. 排水管清掃業の地位向上のための取り組み 【担当：管理部（総務・広報委員会）】

業界の専門団体として、行政に対して建築物の環境衛生面、労働安全面等に関する提言を行い、業界の地位向上のため会員企業の声を行政の政策に反映し会員企業が活力ある企業活動を行うための基盤づくりを推進する

1、管清掃業の社会的認知度を高める活動

管清掃業としての必要性を社会的に認知させることにより高い付加価値を創出する

	2年目	3年
プラン	ホームページ変更	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	ホームページの見直しを進め、トップページのデザインを一新した。	

2、協会のブランディングのための取り組み

会員企業の競合との差別化や調達力の向上を図るべく全国管洗浄協会としてブランディングに取り組む

	2年目	3年
プラン	ブランドイメージの波及方法について検討	ブランドイメージを波及するべく活動
報告	排水管清掃がエッセンシャルワーカーであることがコロナ禍で浮き彫りになり、ホームページや全管協ニュースを通じて広報した。	

3、社会貢献事業への取り組み

業界として社会的責任を果たすべく積極的に社会貢献事業を推進していく

	2年目	3年
プラン	意見を集約し、協会としての社会貢献事業を決定	社会貢献事業へ向けた準備
報告	40周年事業の検討、SDGsの取り組みに関連して、寄付活動やオリジナルストラップの作成を検討した。また、排水管清掃業務そのものが、SDGsの理念に合致していることを表明するための議論を重ねた。	

4、他業種との交流

他業種の団体と交流していくことで新たな技術の蓄積や事業機会の創出など相乗効果の創出をはかる

	2年目	3年
プラン	他業種との交流、学生との意見交換会の検討。他業種展示会への見学会開催	学生や研究者との意見交換会の開催
報告	ビルメン業界やディスプレイ協会、給排水研などとのコロナ禍での交流の進め方を検討し、オンラインなどの活用を協議した。	

5、人材確保に対する支援

会員企業の安定した人材確保に対して研究し支援していく

	2年目	3年
プラン	模索検討した内容の会員企業への水平展開	成功事例の共有を推進
報告	設立に向けた進め方を決め、準備会の設立を進めたが、コロナ禍で思うように検討が進まず、感染拡大が落ち着いてから検討を進めることを決めた。	

Ⅲ. 組織・運営力の強化 【担当：支部統括部（支部活性化委員会）】

一般社団法人全国管清掃協会が業界を代表する団体として、会員数は業界の声を反映する指標であり、その土台として強固な組織・財政基盤を築いていく。

1、組織・財政基盤強化への取り組み

2024年までに正会員300社を目指す

	2年目	3年
プラン	入会キャンペーンを6月から8月まで実施する。会員数を243社から255社にする。	入会キャンペーンを6月から8月まで実施する。
報告	今年度は8社の入会があったが、コロナ禍で10社の退会となり会員数は減少した。来年の協会創立40周年は入会キャンペーンを通年でを行い、一丸となって会員増に取り組むことを決めた。	

2、会員サービスの充実

ニーズにあった会員サービスの実施や会員相互の親睦を図り協会員の定着率を高める

	2年目	3年
プラン	1年目の実施を継続する。海外視察研修を実施する。	1年目の実施を継続する。
報告	シンガポールの海外研修が、コロナ禍で中止になったため、落ち着いてから検討を進めることにした。	

3、情報発信

様々な媒体を通して業界に関する新しい情報を発信する

	2年目	3年
プラン	運用開始準備	運用開始
報告	オンライン(zoom)による会議や支部総会の開催などを実施。	

4、中期ビジョン推進のための協会組織・執行体制の確立

時代の環境変化に即した柔軟かつ効果的な事業を行えるよう委員会や支部編成のあり方を検討し機動的な事務局体制の確立を図る

	2年目	3年
プラン	検討結果及び意見の取りまとめ	中期ビジョン推進のための協会組織・執行体制を理事会に提案
報告	支部推薦理事の検討の中で、新たな役員を選任するなど、支部組織の編成について検討した。	

5、支部活動の活性化

魅力的で組織的な支部事業を企画立案し水平展開していく

	2年目	3年
プラン	各支部にて独自事業の検討及び実施	各支部における事業の進捗状況フォロー
報告	コロナ禍でも防災体験学習を行うなど、できることを着実に進め、来年度の開催について検討した。	

IV.委員会活動の活性化

アクションプランの推進と更なる会員のメリットとなる活動の計画と実行を推進していく

技術委員会

	2年目	3年
プラン	資格講習については開催地の情報を集約することにより更なる座学・実技のバージョンアップを図る。	現状、集合住宅や住宅に偏った情報・活動内容であることから、施設保守にも目を向け大型施設や公共施設・雑居ビル等にも視野を広げ会員企業の利益に繋がるべく、管理者に対し提言を進める。
報告	第48回研究集会の発表が優秀賞を受賞し、2年連続受賞となった。	

総務委員会

	2年目	3年
プラン	協会として実施する視察研修の検討	視察研修の実施
報告	シンガポール研修を企画し募集したが、コロナ禍で中止	

広報委員会

	2年目	3年
プラン	会員以外の協会外への広報について検討	前年度の検討結果を踏まえて実施
報告	協会外への広報は、ホームページの活用が効果的として、内容の充実に向けた議論を重ねた。	

支部活性化委員会

	2年目	3年
プラン	支部長会の開催を年3回の理事会の前に開催して支部の状況を把握する。各支部で、会員が親睦を深めるため、交流できる場を増やすように努める。例えば、複数支部開催の幹事会を開催する。	3年間の総括で委員会を中心にさらに支部間の連携を深める。
報告	委員会をオンラインで行い、情報交換を実施した。	

認定委員会(優良事業者)

	2年目	3年
プラン	選定された広報先へのアクション。各地域開催の排水管洗浄技士講習の見学会を開催し招待する。10社認定を目指す。	招待者からの意見取りまとめ。10社認定を目指す。
報告	コロナ禍で技士資格の開催が見送られたが、2社の申請があり認定した。	